

## 国指定重要文化財

# 関家住宅

せきけじゅうたく

都筑区勝田町にのこる関家住宅は、建築当初から市内にある古民家として唯一、国の重要文化財に指定されている建造物です。関家は、戦国時代に小田原北条氏の家臣だったという伝承をもち、江戸時代の初めから勝田村の名主を務めました。江戸後期には代官職も兼務し、屋号「おだいかん」を号しています。関東地方でも最古級と考えられる主屋の建築は17世紀前半にさかのぼり、書院は18世紀前半、表門は19世紀中頃に建てられました。

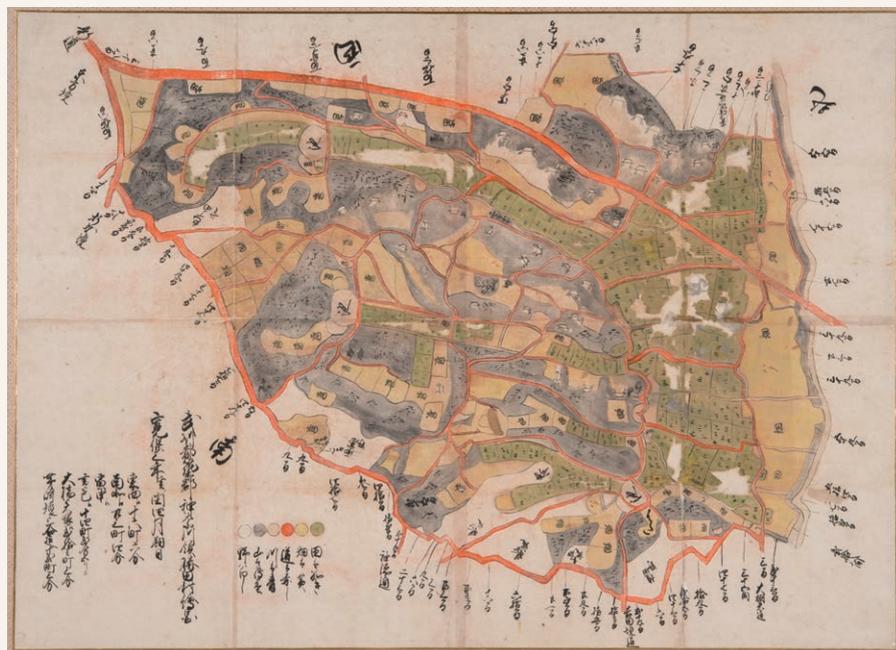


## 1 関家と勝田村の歴史

勝田の地名はふるく、鎌倉時代の歴史資料に見えます。その後、戦国時代の天正18年(1590)、豊臣秀吉の古文書に「こつくへ之庄内かちた」と記され、太閤検地の帳簿にも「勝田」の田畑や屋敷地が記されています。江戸時代になると、慶長3年(1598)に徳川家康の侍医・久志本氏が秀忠の病氣平癒の功績により、勝田・牛久保2ヶ村を与えられ、幕末まで支配しました。

関家は南東方向にひらけた谷戸の中腹に建っており、屋敷の背後を中原街道が通り、北隣には村社・杉山社が鎮座しています。

明治時代になると、勝田村は山田村・大棚村・牛久保村・茅ヶ崎村と合併して「中川村大字勝田」となり、昭和14年(1939)には都筑郡が横浜市に編入されて港北区勝田町に、平成6年(1994)には都筑区が誕生して都筑区勝田町になりました。



勝田村絵図 寛保3年(1743)

## 2 建物の概要



表  
門

19世紀中頃に建築。桁行20.7m、梁間4.8m、茅葺2階建ての長屋門。もとは平屋建てだったが明治24年(1891)に2階建てに改造。



主  
屋

17世紀前半頃に建築。桁行18.2m、梁間9.1m。入母屋造、茅葺。土間の左側に4つの部屋を設ける四ツ間取り。神奈川県内の他の古民家と比べて、一回り大規模。開口部の少ない閉鎖的な作りで、採光のための格子窓「しし窓」は関東や中部地方の古い時代の民家に見られる特徴。



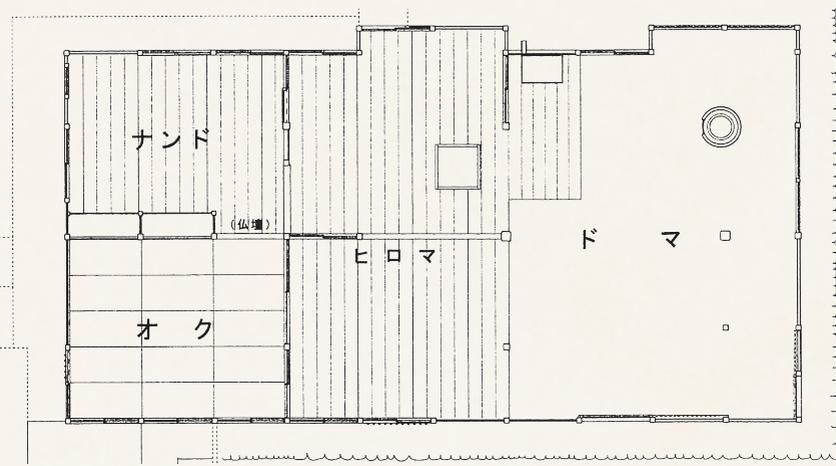


図1 主屋 平面図  
(当初復原図)

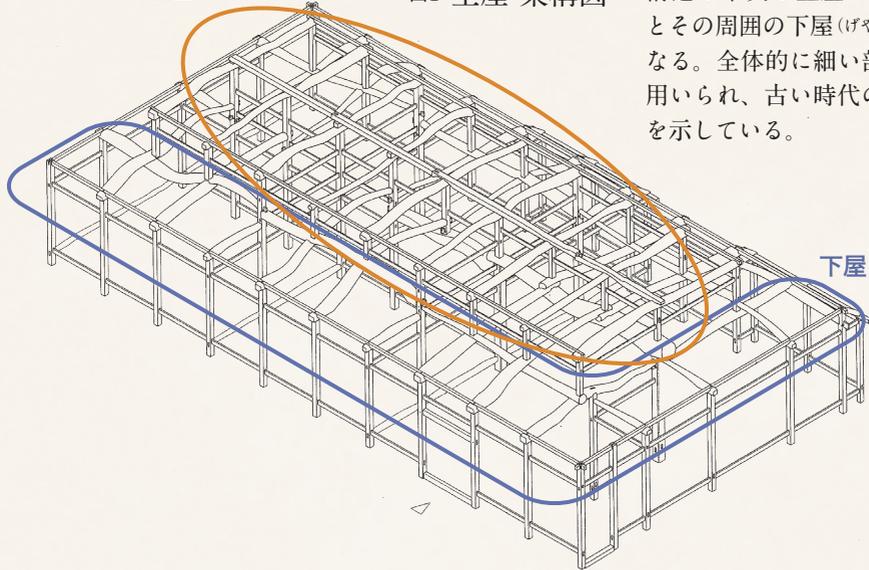
内部は東側に広いドマを設け、西側の居室部分は4部屋が田の字型に配置される。東側の2部屋は一体で板敷きのヒロマとし、北側に囲炉裏が設けられる。西側の2部屋のうち南側は、座敷にあたる畳敷きのオクで、二連の床の間を備える。その北側は、壁に囲まれた閉鎖的な板敷きのナンド（ナンドは生活空間としての利用に配慮し、復原していません）。

上屋(じょうや)

図2 主屋 架構図

構造は中央の上屋(じょうや)とその周囲の下屋(げや)からなる。全体的に細い部材が用いられ、古い時代の特徴を示している。

下屋(げや)



## 書院

18世紀前半頃に建築。桁行9.3m、梁間6.3m、主屋の南面西端に建てられた「カミザシキ」「シモザシキ」と呼ばれる十畳2室の座敷。寄棟造。

図3 書院 平面図

10畳の部屋が東西にならび、三方に濡縁を廻らす。西側がカミザシキ、東側がシモザシキで、カミザシキには北面に床と床脇が、西面に違い棚と付書院が設けられる。

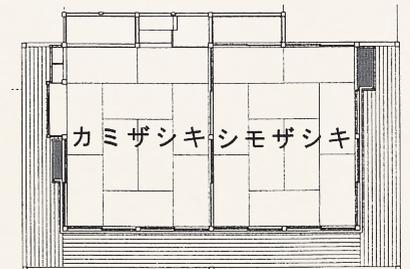




図4 関家住宅配置図

宅地、山林、畑地  
および墳墓地  
11,548.1㎡

### 3 保存修理事業の概要

関家住宅では、平成14年(2002)11月から平成17年(2005)7月にかけて、国庫補助事業による大規模修繕が行われました。主屋は、基礎の沈下や経年による弛緩・傾き、蟻害、腐朽が多く見られたため、すべて解体して組み直しました。また書院は、基礎の沈下は見られたものの、建物の部材は比較的健全であったため、柱や梁等の軸部を残した半解体修理を行い、さらに表門は屋根の部分修理を行いました。

平成30年(2018)には主屋・書院・表門の、すべての屋根の葺き替え工事を行いました。茅葺屋根は、保温性・吸音性・通気性に優れている反面、鳥害、苔の発生や経年による劣化が生じやすいため、今後も定期的な葺き替え・修復が必要となります。



平成30年(2018)の茅葺屋根葺き替え作業の様子

## 4 周辺の古民家

### 旧内野家住宅主屋／旧小杉家長屋門



旧内野家住宅主屋

現在の都筑区荏田東2丁目にあった旧家・内野家は、昭和55年にせせらぎ公園内に、建築当時の姿に近い形で移築・復元されました。土間に隣接した広い板の間(ヒロマ)と2つの部屋からなる三ツ間取りで、土間と広間の境の中央に設けられた低い板壁「タキギヨケ」は、横浜付近の民家に特有のものと言われています。旧小杉家長屋門は東京・目黒区にあった建物が、横浜市に寄贈されたものです。(令和5年11月現在、古民家内部の公開はしていません)

●旧内野家住宅主屋／旧小杉家長屋門

施設名▶せせらぎ公園「古民家」 住所▶都筑区新栄町17

アクセス▶横浜市営地下鉄仲台駅より徒歩5分

### 旧長沢家住宅



旧長沢家住宅 主屋・馬屋

都筑郡牛久保村にあった旧家・長沢家は、江戸時代に名主や組頭を務めました。主屋は18世紀中頃の建築と考えられており、土間に4つの部屋が隣接する5室広間型です。畳敷きで天井が設けられたナカノマとオクの2部屋は、幕府の役人などを迎える接客スペースでした。廊下でつながる馬屋には、馬を飼育するウマヤ部分と食料を保存するミノベヤ部分があり、主屋と馬屋とは、棟をそろえて連続して建てられていました。

●旧長沢家住宅

施設名▶都筑民家園 住所▶都筑区大瀬西2番(大塚・歳勝土遺跡公園内) TEL▶045-594-1723

管理者▶NPO法人都筑民家園管理運営委員会

開館時間▶9:00~17:00 休館日▶第2・第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日~1月3日

アクセス▶横浜市営地下鉄センター北駅より徒歩8分

(横浜市歴史博物館屋上より遊歩道あり)、駐車場なし

